

雑感



福永恭子

子供と幼稚園で過ごしました四年間のことを、自分なりに何かの形にまとめたいと思って、始めましたら、すぐに困ってしまいました。そのまま残しておきたい記録が多くて、まとめるところではないのです。それも、ちょっとした出来事（教師の意図しない活動が主ですが）や、会話だったりするのですが、それを読むと、うれしくなったり、ニヤッと笑ってしまったり、ホッと胸があったかくなったりして、私の手元から離してしまえば心が残るものばかりでした。そのため、まとめることから、書き写す作業へ

と変わってしまいました。やはり、子供といっしょにいた者としては、子供の実際の様子が一番大切なのです。ですから、もっとこまめに記録しておけばよかったと、ちょっと残念に思っています。そんな子供の様子を、ここにいくつかあげてみます。

四歳児の様子から

。入園して間もない頃、「先生、つってごらん」と大きな

声がしてふり返ると、園庭のすみにある、小さな水のはってない池の中に、なわとびを持ったYくんがいました。なわとびのもう一方は、池の外に出ています。「つるの？」と言って、私が近づくとYくんは池の中にしゃがんで、体を小さくしてじっとしています。私はゆっくりと、なわとびを引っぱっていききました。なわがピンとなり、そして手ごたえが加わって、うれしそうな顔をしたYくんが、釣れたのです。(Yくんのおもしろい、アイディアで、私は楽しませてもらいました)

。十月のある日、思い思いに描いた果物の面をつけて、子供たちは遊戯室に遊びに行きました。私は、まだできていない子供の様子を見たり、面に帯をつけたりしていました。「りんごがなっているからきて」と言われて、どうしたのかなと思いつつ遊戯室に行くと、面をつけたり、手に持った子供たちが机の上ののって、黒板から顔を出していました。(あらあら、机の上ののって)と思いつつも、並んでいる顔にニコニコして、「どれがおもしろいかな、食べてみましょう」と言って一人ずつ机からおろしていききました。(子供たちの考え出したこと

や、私を呼びに来てくれたことをうれしく思いながら、机の上ということでもちょっと困っている私の複雑な心理？が、今でもよくわかるのです)

。春も近い穏やかな日、テラスに出してあった机を、食事の準備のために部屋に入れて並べていたTくんとKくん。「あったかい」と、ほったたを机にくっつけていました。私もほったたをつけてみたら、お日さまのおいがして、とても気持ちよくなりました。

五歳児の会話から

。N子「わたし、バレー踊れるよ」

私「じゃあ、踊ってみせて」

N子「いやだ」(すかさず)

A男「けちんぼ」

(そのあと男はバレーを踊らないという話になって)

私「あら、男の人も踊るわよ」

S子「そうだよ。女だけだったら疲れるもんよ」

思わず私は、大笑いをしてしまいました。Sちゃん

は、ちょっとげげんそうな顔をしていましたが……。

○五月頃のこと、おうちごっこをしているままごとコーナーに通じかけた私に、Eちゃんが言いました。

「わたし、K（名字）っていうのよ。だってTくんがお父さんで、わたし、お母さんなの」Eちゃんは、紙に「K」と書いてカラーブロックの門にはりました。（お父さん役の子供の名は、T・Kです。ああ、なるほど。よくわかってるわ、と大人の私が感心させられました）

○九月のある日、部屋でみんなを前に話している時、突然Y子「先生の口、どうしてそんなに大きいの？」びっくりして、私は笑い出してしまいました。（どうしてまた急に、ウーン……ちよつとからかってみようかな）

私「みんなが修了する頃、みんなを食べるためよ」

子供「うそだ」「えー」「いやーん」

Y子「ドリルで、もっと大きくしちゃう」

私「そんなことしたら、もっと食べ易くなるわ」（Yちゃんは、ふだんなら冗談がわかるのに、今日は半

信半疑でちょっと不安になったらしく）

Y子「じゃあ、小さくする」

S男「ぼく、食べてもおいしくないよ」

（Sくんは、クラスで一番小さな細い男の子です）私が笑いながら、「大丈夫、みんなを食べたりしないわ」と言うと、子供たちも笑い出しました。（予想以上の反響に、私の方があわててしまいました）

○台風が去った、天気の良い暑い日でした。お弁当のあと、テラスで粘土をしながら、誰に言うともなく

I子「秋なのに、あついわねー。夏はさむかったのに。」近くにいたK男がI子をみずに言いました。

K男「夏は すすしかったの！」

○修了式の終わったあと、丸テーブルで数人の子供たちと話していた時、

T男「先生の顔、ポツポツがたくさんあるね」（まあ

失礼な！）

Y子「♪そはかすなんて気にしないわ、はなべちゃだつてだつてお気に入り♪」私の顔を見て、すぐ歌って

くれました。

T男「先生、鼻高いね。Y子さん、はなべちゃだね」

笑いながら、Yちゃんと私は慰められました。まわりの子供たちも、笑っていました。

感じていただけますか。こういうことというのは、その場にはないとなかなかわからないことですね。雰囲気や表情などがありますから、それらを一つずつ説明していったら、せっかくその場でつくられた「もの」、つくられつつあった「もの」が、消えてしまつて、つまらないものだけが残つて、むなしくなります。特に研究ということで、子供の活動をまとめたりすると、そのことを強く感じます。一体、何をしているのだろう、これが子供のためになつているのだろうか、と。

子供といっしょにしていると、いろんなことを発見させられて、好きです。今まで私がみていたものでも、新しい見方を知らされて、うれしくなることも度々あります。もちろん、大変なことも、いやなこともありますけれども。

幼稚園の他にも、子供と接する機会があります。姪やおばさん、近所の子供たちのお姉さん、通りがかりのおばさん(?)としてなど。通りがかりのおばさんとしても、ステキな出会いをしたことがあります。

ちょうど角を曲がった所で、小学校一年生位の髪の毛の黒い、おかつぱの女の子に会いました。めとめがあつて、思わずにこつと(したと思うのですが)して、私は真剣な女の子のまっ黒な目に、恥ずかしくなつて目をそらせてしまいました。そして、すれ違う時に、もう一度みたら、その女の子も私の方をみていました。きつと、私も女の子に負けない位いい顔をして、私の気持を表わそうとしていたと思います。

どんな時にも、子供と共に喜びや楽しさを感じられる心を持つていたいと思いますし、自分の人生を振り返った時に、いつでも、子供たちとの楽しい思い出が、たくさん残っていたら、うれしいと思います。